

# ヨシナカ新聞

3月号  
発行所  
株式会社ヨシナカ  
東京営業所  
TEL: 03-3555-0796

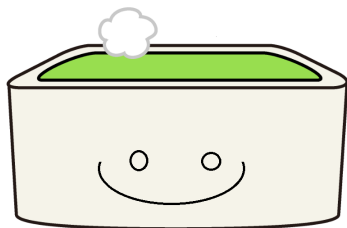
## 何故「浴槽」のことを「湯舟」と呼ぶのか

三月に入りましたが、本格的な春が来るにはもう少し時間がかかりそうです。まだまだお風呂に癒される今日この頃ですが、「浴槽」のことを何故「湯舟」と呼ぶのか、この疑問を先日ラジオで聞きましたので紹介させていただきます。

お湯を入れた浴槽を移動させるのはかなりの重労働になりますので、船にお湯を張った浴槽を乗せて、港や川に停泊していました。湯の船が移動していたので、湯船と呼ばれるようになり、それが現在の「湯舟」の語源になりました。

船にお湯を張った浴槽を乗せて移動する銭湯が流行り始めたのは、江戸時代の中期から後期だと言われています。船タイプの銭湯は、浴槽にたっぷりとお湯を張っているのが特徴でした。それが人気となってから、お湯をたっぷりに入れた風呂が当たり前になっていったそうです。

現在は家にお風呂があるのは当たり前ですが、昔はそうではありませんでした。田舎の家には風呂が各家庭にあったとしても、江戸のような人口の多い都市部では長屋が多く、長屋にお風呂はないので、江戸の庶民は銭湯を使っていました。それは地方の都市部でも同じで、湯船の語源は銭湯でした。家にお風呂がない人たちのために、料金を取ってお風呂を提供する商売が生まれた当初は、銭湯は固定の場所ではなく移動銭湯から始まりました。



## グーグルマップを「街歩きマップ」として楽しむ方法

右の地図は現在の住まいで、グーグルマップの検索窓に「史跡」と入力して検索して表示された画像です。これだけで史跡巡りの街歩きマップの完成です。「銅像」や「神社」「地蔵」「古本屋」など巡ってみたい

単語で検索して散策するのも楽しいと思います。少し暖かくなったら住まいの近くだけでなく、少し離れたところに行ってスマホやタブレット片手に散策してみようかなと思ったりしています。



## 近鉄特急車輛にお別れ

1969年(昭和44年)に12000系の改良形として登場し、2021年に引退した近鉄特急12200系車輛が先月、解体工場に運ばれました。その移送時の写真を大阪工場のMさんが撮影、提供下さいました。

1960年生まれで奈良県育ちの私はこの車輛にたくさんお世話になりました。京都に遊びに行ったこと、難波駅から特急料金500円を奮発して贅沢に帰宅したこと、出張で大和八木駅から名古屋間を往復したことは数えきれません。

なので、この車輛が解体されることはとても寂しく思います。Mさんが撮影された写真達を見ながら「ありがとう」という言葉と共に見送りします。



## マルテンサイト系ステンレス鋼の熱処理

マルテンサイト系ステンレス鋼は13%のCr量を含む鋼で、焼き入れ、焼き戻しをして用いられており、引っ張り強さ、衝撃値、硬さなどの機械的性質が第一要件となります。熱処理条件を決定するには変態についての挙動を知ることが重要です。

熱処理に関連する成分元素の作用については、炭素は硬さ、耐摩耗性、

引っ張り強さを高める。Niは変態点を下げ、硬化性を増し、焼きなましを困難にし、Crはその量を増すと領域を狭くするので、焼入処理を難しくします。また、耐食性においては、焼き入れ後の焼き戻し処理は低温で行うのが望ましく、高温で行うのは微炭化物が析出するために、その結果として固溶Cr量の減少が生じるために好ましくありません。

マルテンサイト系ステンレス鋼において、低炭素の13%Cr鋼及び16%Cr、2%Ni鋼(SUS431)は主として耐食構造用鋼として用いられるのに対して、高炭素系の鋼(たとえばSUS420J2、SUS440Cなど)は刃物や耐摩耗用に適しています。マルテンサイト系ステンレス鋼に適用される熱処理法は、焼きなまし、焼き入れ焼き戻しです。